

週間感染症情報

2022年50-52週 2022年12月12日より2023年1月1日まで

50週 51週 52週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)			
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症		1	
手足口病	6	5	4
ヘルパンギーナ	1	2	0
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	34	110	65
ロタウイルス(再掲)			
腺ウイルス(再掲)			
突発性発疹	4	3	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	1	1	
ヘルペス性口内炎			
腺ウイルス感染症	2	2	3
RSウイルス感染症			
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス			
インフルエンザ	1	1	12
インフルエンザ A	1	1	12
インフルエンザ B			
新型コロナウイルス感染症	165	210	187

50週から52週の3週間の報告です。新型コロナウイルス感染症の報告はさらに増加して51週は210例と第7波を超える勢いです。規制のない3年ぶりの年末年始で、人の動きも活発になっています。会食などで感染する例が増えています。発熱外来を受診される未接種の方をみかけますが、高熱でかなりつらい思いをされています。やはり「ただのかぜ」ではないようです。最近、8月にり患した方の再感染をみかけました。り患しても時間がたつと抗体が減少して再び患するようです。小児でのワクチン接種率(2回接種165万人 23% 2023.1.6現在)は低いです。ほとんどは軽症ですみませんが、感染者が多いと脳症や心筋炎などを起こして亡くなる小児もでてきます。コロナワクチンは重症化を予防します。抗原量が少ないため発熱などの副反応は少ないです。若い方も追加接種(オミクロン対応ワクチン)をぜひ考えて下さい。

52週になりインフルエンザAの報告が12例と増加しました。コロナと同様に家族内感染を起こしています。今後学校が始まると1月末から2月にかけてインフルエンザの流行のピークが来るかもしれません。2023年第1週の吉備医師会の先生方の報告(1/8まで)でインフルエンザが23例ありました。ほとんどがA型です。コロナと同様に、インフルエンザも脳症で急激に悪化して亡くなる症例もあります。ワクチンは重症化を予防します。まだ間に合いますのでワクチン接種を考えて下さい。

嘔吐で始まるノロウイルスによると思われる胃腸炎が市内全域で流行しています。食べ物を介する食中毒の場合と、吐物などを介しての人から人への感染があります。感染力が強く、コロナと違いアルコールで予防できません。多くは、1~2日程度で軽快しますが、1週間近く長引く場合もあります。

カンピロバクター腸炎もみかけます。焼き肉などが原因のことがあり、便培養が必要です。

今まで通りの感染予防対策とともに
何より大切なことは、ワクチン接種と
「体調不良の場合は休む」です。無理して、登校・出勤して周囲に感染を広げて、結局大きな迷惑をかけていることが多く注意が必要です。

(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)

